

機関リポジトリ事例報告 ～香川大学の場合～

DRF-Tosa 2010.2.19

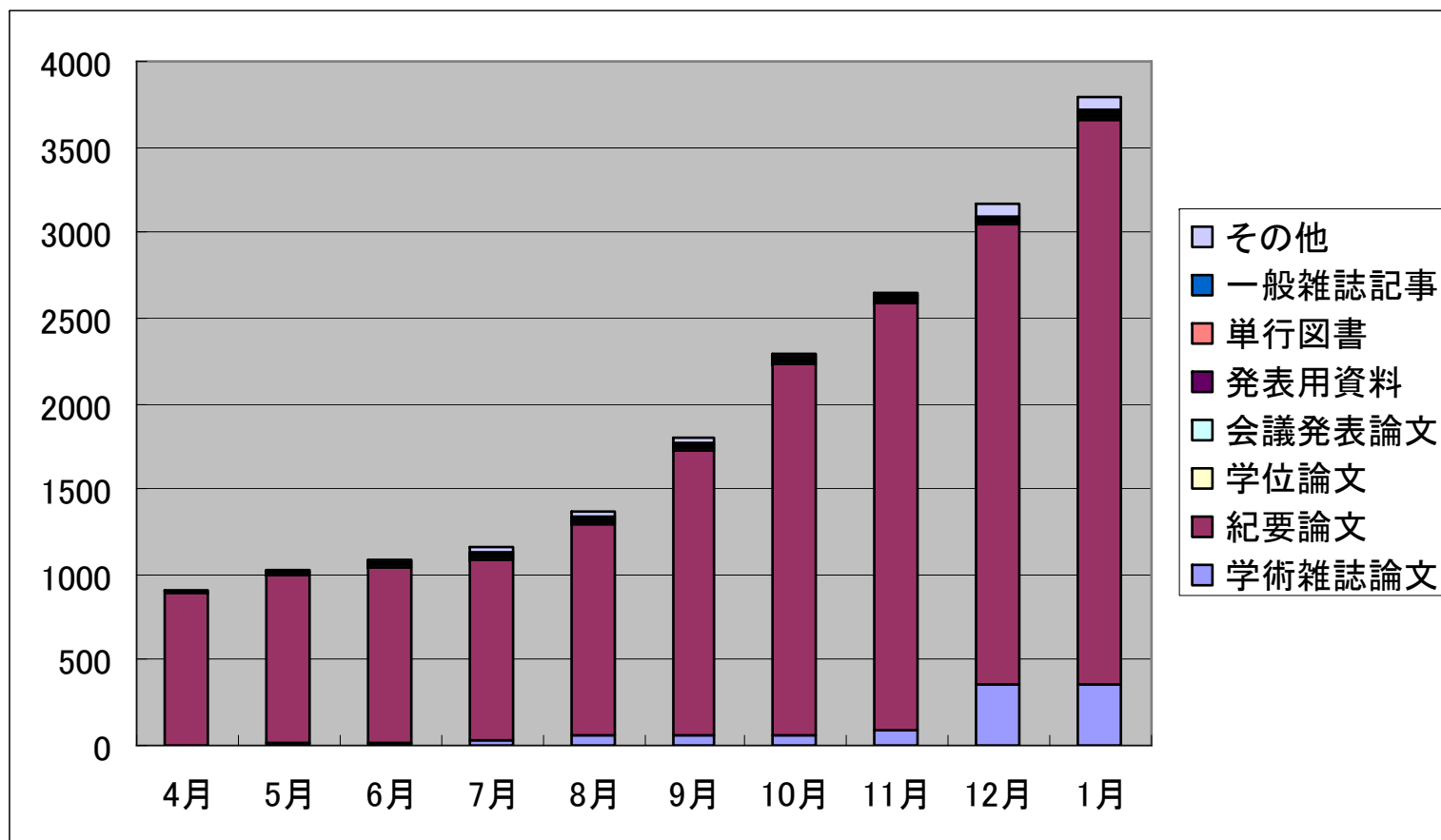
香川大学図書館 岩澤 尚子

機関リポジトリ 今まで

H18年度	機関リポジトリWG発足
H19年度	図書館業務システムの一部として “e-repository”導入
H20年度	CSI委託事業採択 試験公開 業績DBとの連携 教授会での説明会
H21年度	OLIVE正式公開 主担当＋支援チーム体制 紀要のバックナンバー集中的に入力中

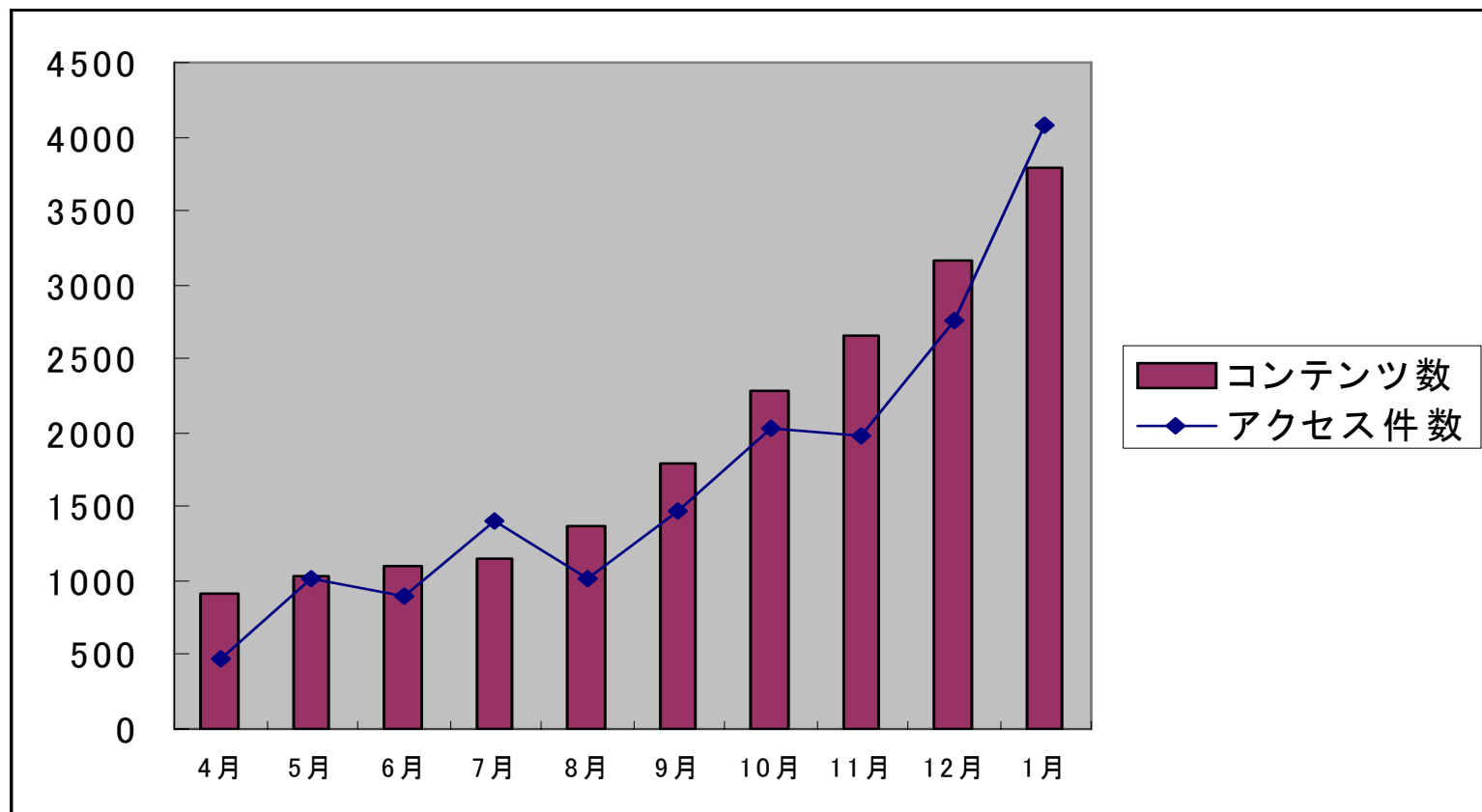
OLIVEの今 その1

平成21年度コンテンツ数



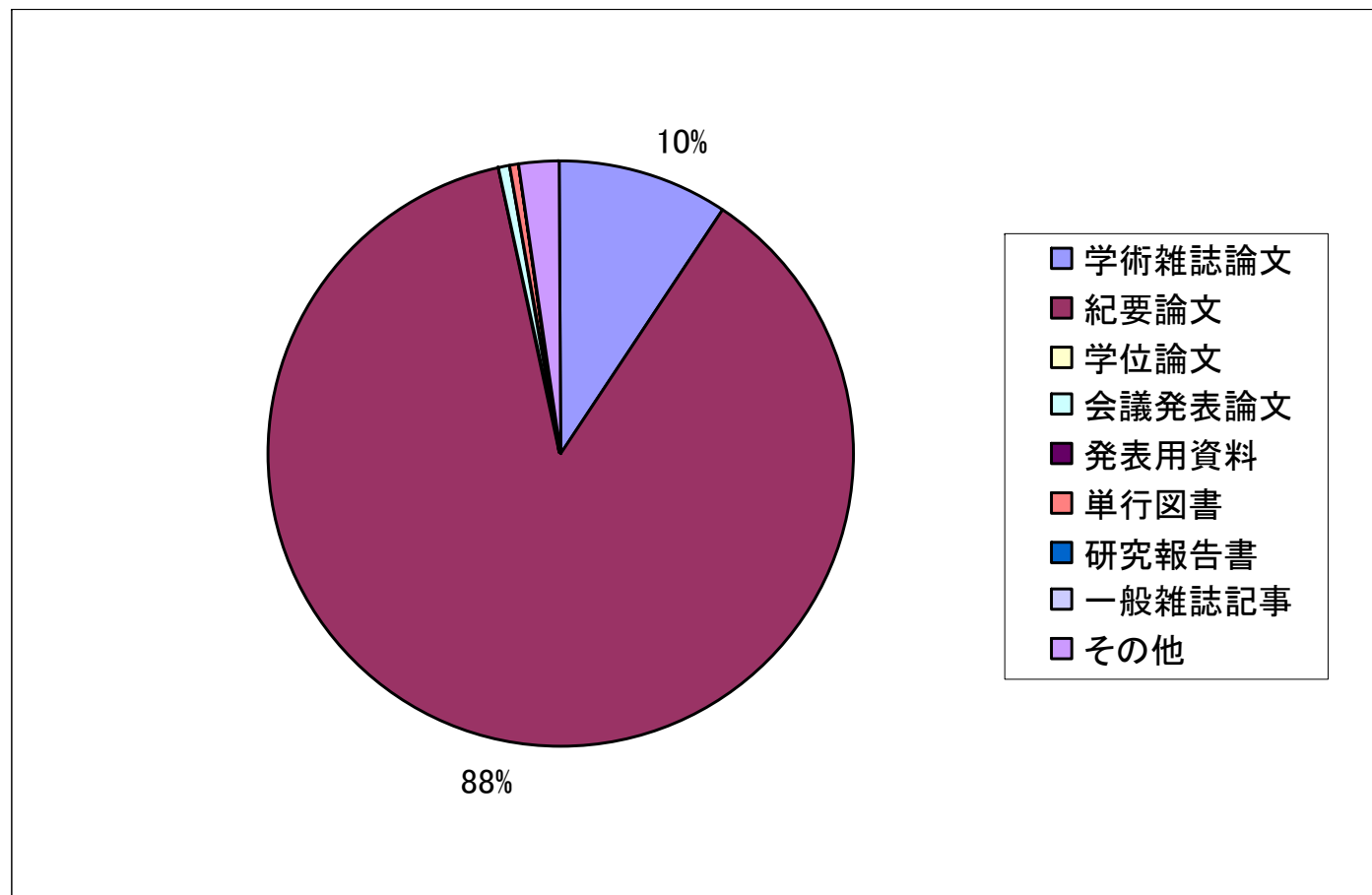
OLIVEの今 その2

平成21年度コンテンツ数とアクセス件数



OLIVEの今 その3

コンテンツ種類内訳（平成22年1月末現在）



コンテンツ収集 紀要類

中身はほとんどが紀要類

学内紀要等バックナンバー許諾状況

学部等	最新号	バックナンバー
A学部	許諾	許諾
B学部	許諾	許諾
C学部	許諾	許諾(一部非公開)
D学部	許諾	検討中
E学部	許諾	許諾
Fセンター	許諾	許諾
Gセンター	許諾	非公開

トップ判断

著者個別に許諾

HP上で一定
期間告知

総会で諮った上、
葉書で告知後 許諾

コンテンツ収集 学術雑誌論文など

学術雑誌論文収集方法

SCOPUSアラートから

説明会で

研究者DBから

芋づる式

窓口で

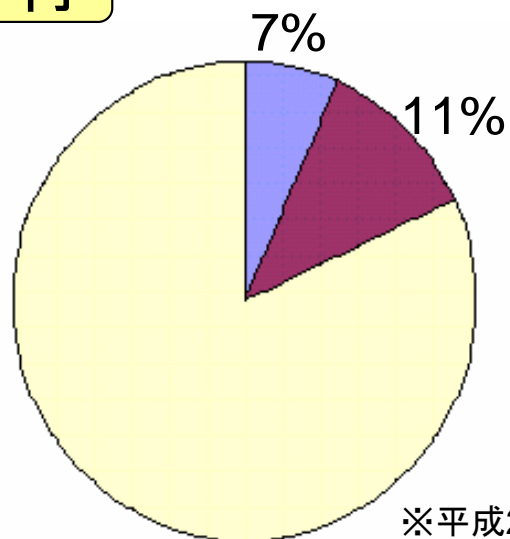
ILL依頼利用者

ILL受付
結果から

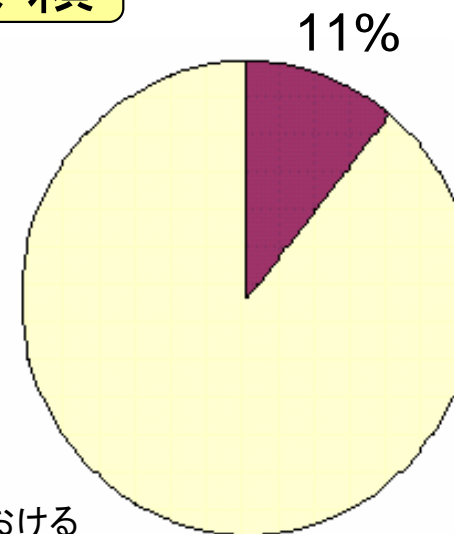
レファレンス
利用者

リポジトリ と ILL

受付



依頼



※平成20年度中央館(人文・社会科学系)における

- ・優先的にIR公開処理
- ・1回スキャンすれば・・・
- ・書庫の狭隘化の解消に貢献できるかも・・・

事例に学ぶー失敗例から

- ・長すぎたテスト公開期間
- ・システムの選択
- ・WGか専任か
- ・PDF容量(ソフトの選択)
- ・メタデータ
- ・見せ方の工夫

事例に学ぶー成功例から

DRF・DRF Tech

UserCom

CSI

- ・お手本がある
- ・理解を得やすくなってきた
- ・浸透しはじめている
- ・様々な試みがある

ROAT

SCPJ

IRcuresILL
(チーム I'LL)

ShaRe

事例に学ぶー成功例から

もう少し詳しく...

CSI委託事業

経費獲得 ⇒ <http://www.nii.ac.jp/irp/>

DRF・DRF Tech

全般お助け ⇒ <http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/>

UserCom

システムお試しサイト ⇒ <http://usrcom.ll.chiba-u.jp/usrcom/>

IRcuresILL

IRとILL ⇒

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?IRcuresILL>

SCPJ

著作権許諾確認 ⇒ <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/scpj/>

ROAT

アクセス分析 ⇒

<http://www.ll.chiba-u.ac.jp/~joho/CSI/standardization.html>

ShaRe

共同リポジトリ ⇒

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/share/share.html>

...など

少しでも早く始めてみて思うこと

- ・図書館の新たな活動 利用者や大学との新しい関係
- ・見えない誰かが喜んでいる顔を想像する
きっと必要としている人がいる
- ・地方中小規模大学からでも発信
- ・先は長い ”これから”
- ・それぞれのリポ
- ・まずは1歩踏み出そう